

トヨタ紡織、中国の内モンゴルで森づくり活動を実施

トヨタ紡織グループは、5月11日に中国の内モンゴル自治区にあるトングリ砂漠で森づくり活動を実施しました。これは、中国の統括会社である豊田紡織中国が主体となり、砂漠化防止を目的に中国緑化基金会と連携して、2013年から取り組んでいる活動です。

年々活動の輪が広がり、7回目となる今回は、中国生産事業体メンバーとともに、中国自動車工業協会など政府・業界団体や上海交通大学、仕入先の関係者を含め73名が参加し、1万5千本の苗木を植樹しました。これまでの延べ参加者数は353名、植樹本数は約5万6千本にのぼります。

多くの関係団体と協力して、継続して砂漠化防止に取り組むこの活動の独自性が高く評価され、昨年、中国国家林業局より「生態中国貢献賞」を受賞しました。

トヨタ紡織は基本理念として、よき企業市民として社会との調和ある成長を目指しており、2016年に「2050年環境ビジョン」を策定し、チャレンジ目標の一つに「132万本植林」を掲げています。トヨタ紡織グループ全体でこの目標を達成するため、今後も世界中で森づくり活動を推進していきます。



植樹前



現在の様子

トングリ砂漠における森づくりの成果